

| NO | 書名 | 巻次/副書名 | 著者名 | 出版年 | 出版社 | 内容 | 現在場所 | 請求記号 | 備考 |
|-----|-----------------------|----------------|------------------------------|--------|-------------------|---|-----------|-------|--------|
| 127 | 東北港湾震災復旧の軌跡 | | 日本埋立浚渫協会 東北支部技術委員 会／編集 | 2017.3 | 日本埋立浚渫協会東北 支部 | p11に、東日本大震災の相馬港の震度、既往の津波高さとの比較、到達時間と最大波高、p147～173に相馬港の災害復旧、復旧状況について記載。 | 郷土資料 | 683 ニ | 禁帯出 |
| 126 | よみがえれ！みちのくの鉄道 | 東日本大震災からの復興の軌跡 | 東北の鉄道震災復興誌編集委員会：編集 | 2012.9 | 東北の鉄道震災復興誌編集委員会 | 東日本大震災の鉄道に与えた被害状況をまとめたもの。P5・64・109・116・135・138に新地駅の被害状況、乗客を助けた警察官のコラム等掲載あり。 | 郷土資料 | 686 ト | |
| 125 | 復興支援活動推進業務成果報告書 | 令和2年度 | 宮城県 | 2021.3 | 宮城県 | p48に、新地町の「ホテルグレード新地」と「天然温泉つるしの湯」の建設、事業運営に当たる、株式会社新輝（新地駅前のホテル・温浴施設の運営事業者に選定された有限会社ケントレーディングが設立した子会社）の記載あり。 | 郷土資料 | 369 ミ | |
| 124 | 岩手・宮城・福島産業復興事例集30 | 2021-2022 | 復興庁企業連携推進室：編 | 2021.1 | 復興庁企業連携推進室 | | 郷土資料 | 318 フ | |
| 123 | 東日本大震災10年復興の歩み | 宮城・岩手・福島 | | 2021.3 | 河北新報社 | 東日本大震災発生から2021年で10年。『河北新報』の大型写真特集「復興の歩み」をベースに、宮城、岩手、福島の被災地の震災直後と10年後の復興の様子を空撮を中心に紹介する。震災前に撮影された街並みの写真も掲載。 | 一般・社会 | 369 ヒ | |
| 122 | 青空応援団 | 僕らはいつだって応援している | 平了//著 | 2020.9 | 扶桑社 | 東日本大震災後、「人助けに理由はいらねえ」をモットーに泥かきを手伝っていた「スコップ団」の団長が、社会人応援団を立ち上げた。夢の実現に向けてチャレンジする人のために、全国各地でエールを送る活動を紹介する。 | 一般・日 文 | 916 タ | |
| 121 | 震災等復興活動支援センター活動記録集 | 2011年度～2019年度 | | 2020 | 明治大学震災等復興活動支援センター | 明治大学で行った東日本大震災後の復興活動をまとめたもの。p2、4、7、8、11、12、15、17、18～28、49、50、58に新地町での活動を掲載。 | 郷土資料 | 369 シ | 複本あり |
| 120 | 開館10周年記念誌 | 南相馬市立図書館 | 南相馬市立中央図書館：編集 | 2020.3 | 南相馬市立中央図書館 | 南相馬市立図書館10周年の記念誌。図書館のあゆみ、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響、移動図書館、としょかんTOMOみなみそま など | 郷土資料 | 16 ミ | |
| 119 | 漫画アクション | 2020年3月17日号 | 吉本 浩二 他：特集企画著者 | 2020.3 | 双葉社 | 特集企画「漫画で考える震災」の3(p29～57)に「うみべのふるさと」吉本浩二：著掲載。新地町を舞台に新地町出身の女性と結婚した作者からみた東日本大震災の復興(新地町)を描く。 | 郷土資料 | 726 ヨ | 複本2冊あり |
| 118 | 瓦礫から本を生む | | 土方 正志//著 | 2020.2 | 河出書房新社 | 東日本大震災の大混乱のなか、仙台のちいさな出版社・荒蝦夷が決意したのは、地元の声を組み、全国へ、そして未来へ発信しつづけることだった。「明日の被災者」へむけた、2011年3月から現在へとつづく苦闘の日々の記録。 | 文庫 | 23 ヒ | |
| 117 | 生活再建ハンドブック・福島県からのお知らせ | | 政府広報：編集 | 2011 | 政府広報 | 政府広報が東日本大震災の被災者に向けて発行した「生活再建ハンドブック」Vol.1～4と、福島県災害対策本部が発行した「福島県からのお知らせ」17報、26報、27報を綴ったもの。 | 郷土資料 | 369 セ | 禁帯出 |

| | | | | | | | | | |
|-----|-----------------------|------------------------------------|-----------------|--------|---------|---|-------|-------|------|
| 116 | 津波死ゼロの日本を | 被災地の復興に学ぶ | 岩淵 孝 // 著 | 2019.8 | 本の泉社 | 学校では津波防災教育を避難教育にとどめ、「自己責任による避難教育」に単純化している。自然災害とは何かを改めて問い直し、科学的な自然災害論を踏まえた津波防災教育についての試論を展開。『季論21』掲載を元に書籍化。 | 一般・社会 | 369 イ | |
| 115 | 岩手・宮城・福島産業復興事例30 | 2018-2019/想いを受け継ぐ次代の萌芽～東日本大震災から8年～ | 復興庁:編 | 2019.2 | 復興庁 | 岩手・宮城・福島の3県の企業や団体が、業種や地域の特性、培ってきた知見や創意工夫を活用した、さまざまな「挑戦」を紹介。 | 一般・社会 | 318 フ | |
| 114 | 「新しい東北」事例集 | 地域課題解決に向けた挑戦 | 復興庁:編 | 2019.2 | 復興庁 | まちの賑わいを取り戻すために各地で行われているまちづくりの取り組みをまとめた事例集。 | 一般・社会 | 318 フ | |
| 113 | after 3.11世代 | | | 2019.3 | 樫出版社 | 5人の若者たちは、東日本大震災が起きた時、若手社会人、もしくは就職を控えた学生たちだった。彼らafter 3.11世代がどのように震災を受け止め、彼らの考え方、働き方にどんな影響があったのかを追う。 | 一般・歴史 | 281 ア | |
| 112 | The Light | 福島から世界に贈る感謝と光のメッセージ | アンジェリーナ エムズズキ:著 | 2018.6 | タイムズ | 感謝を込めて贈る福島の光ー2011年の東日本大震災後、日本中、世界中からたくさんの支援が寄せられた。著者が仲間と支援活動に携わる中で出会った、心温まる物語やメッセージを綴る。 | 郷土資料 | 369 ス | 複本あり |
| 111 | 震災復興の政治経済学 | 津波被災と原発危機の分離と交錯 | 齊藤 誠:著 | 2015.1 | 日本評論社 | 東日本大震災の復興政策、福島第一原発事故に起因する賠償や廃炉の基本方針の意思決定プロセスを検討。震災復興政策や過剰と原発危機対応の不徹底を明らかにすると共に、それらがもたらした無駄と無責任を問う。 | 一般・社会 | 369 サ | |
| 110 | ひまわりが咲くたびに“ふくしま”が輝いた! | | チームふくしま:著 | 2017.2 | ごま書房新社 | 外国産のひまわりの種を福島から全国に送って里親として育ててもらい、収穫したひまわりの種を送り返してもらう「福島ひまわり里親プロジェクト」。ひまわりをきっかけに生まれた絆や、ひまわり甲子園の様子などを紹介する。 | 一般・社会 | 369 チ | |
| 109 | 福島ひまわり里親プロジェクト物語 | チームふくしまの軌跡 | 田原 実:作 | 2018.3 | インフィニティ | 全国25万人2200の教育機関が参加した「福島ひまわり里親プロジェクト」。『ひまわりが咲くたびに“ふくしま”が輝いた!』をコミック化したもの。 | 一般・社会 | 369 タ | |
| 108 | 続く挑戦つなぐ未来へ | 2017-2018/岩手・宮城・福島産業復興事例30 | 復興庁:編 | 2018.2 | 復興庁 | 被災地3県で創造的な取り組みを行っている企業の取り組みを集めた事例集。 | 一般・社会 | 318 フ | |
| 107 | 東北発 私たちの挑戦 | 2016-2017/産業復興事例30選 | 復興庁:編 | 2017.2 | 復興庁 | 被災地3県で創造的な取り組みを行っている企業の取り組みを集めた事例集。 | 一般・社会 | 318 フ | |
| 106 | 「新しい東北」事例集 | 地域課題解決に向けた挑戦 | 復興庁:編 | 2018.2 | 復興庁 | まちの賑わいを取り戻すために各地で行われているまちづくりの取り組みをまとめた事例集。 | 一般・社会 | 318 フ | |
| 105 | 「新しい東北」事例集 | | 復興庁:編 | 2017.2 | 復興庁 | まちの賑わいを取り戻すために各地で行われているまちづくりの取り組みをまとめた事例集。 | 一般・社会 | 318 フ | |
| 104 | 「新しい東北」先導モデル事例集 | vol.2 | 復興庁:編 | 2016 | 復興庁 | まちの賑わいを取り戻すために各地で行われている取り組みをまとめた事例集。 | 一般・社会 | 318 フ | |

| | | | | | | | | | |
|-----|----------------------------|--|--------------------------------|----------|-----------------------|--|-------|-------|--------|
| 103 | 「新しい東北」先導モデル事例集 | [1] | 復興庁:編 | 2015 | 復興庁 | まちの賑わいを取り戻すために各地で行われている取り組みをまとめた事例集。 | 一般・社会 | 318 ㍑ | |
| 102 | 浪江のこころ通信 | 避難指示一部解除までの記録 | 浪江のこころプロジェクト実行委員会:編 | 2017.1 | 浪江のこころプロジェクト実行委員会 | 『浪江のこころ通信』第31号(平成26年1月)から第69号(平成29年3月)までの記事を掲載。 | 郷土資料 | 369 ナ | |
| 101 | “こどもと震災復興”国際シンポジウム2016 記録誌 | 相馬地方の5年のあゆみ | こどもと震災復興国際シンポジウム実行委員会:編 | [2016.5] | こどもと震災復興国際シンポジウム実行委員会 | 2016年5月7日～8日、相馬市民会館にて行われたシンポジウムの記録誌。被災地報告(飯館・南相馬・新地・相馬)、こどもと震災復興(健康・PTSD対策・弁護士と法テラス・音楽・農業支援・試験操業)、放射線の健康影響、震災・原発事故の社会的影響、基調講演、パネルディスカッション。 | 郷土資料 | 369 コ | 複本2冊あり |
| 100 | 復興フラッグストーリー | 心の復興に向かって | リバイバルF:制作 | 2017 | リバイバルF | 東日本大震災から立ち上がる新地町で、応援旗から復興フラッグが誕生するまでを描いた漫画。復興庁「心の復興事業」。巻末に歴代応援旗の写真・概要、新地町の被害状況の概要掲載あり。 | 郷土資料 | 369 リ | 複本あり |
| 99 | 聞く力、つなぐ力 | 3・11東日本大震災被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち | 日本農業普及学会//編著 | 2017.3 | 農文協プロダクション | 地震、津波そして福島第一原発の深刻事故に直面するなか、普及指導員たちは懸命に被災農家に寄り添いつづける。彼らの「力」の源、役割を、岩手、宮城、福島三県の普及指導員に聞く。論考も収録。 | 一般・産業 | 611 キ | |
| 98 | 震災復興にかける、ダイムラーの行動力。 | 東北をおこすリーダーを! | ソーシャルイノベーション研究会:著 | 2016.1 | 日経BPコンサルティング | ダイムラーは、巨額の寄付金と50台の作業用車両を東日本大震災の被災地へ贈った。その寄付金をもとにしたリーダー育成プロジェクトと、そこから生まれた新事業を紹介する。切り取れる支援車両図鑑の一覧付き。 | 一般・技術 | 537 ヲ | |
| 97 | そこに音楽があった | 楽都仙台と東日本大震災 | 梶山 寿子:著 | 2016.1 | 文藝春秋 | そこに音楽があったから、立ち上がることができた。仙台フィル、八軒中学吹奏楽・合唱部、小山実稚恵など演奏者、被災者の双方に丹念な取材を重ね、「音楽の都」仙台の知られざる復興の記録をまとめたノンフィクション。 | 一般・社会 | 369 カ | |
| 96 | 復興ごはん | 「被災地の声」で綴る、復興を支えた「食」のチカラ。いっしょに作って、いっしょに食べよう! | 味の素グループ東北応援ふれあいの赤いエプロンプロジェクト:編 | 2016.5 | 小学館 | 味の素が取り組む「赤いエプロンプロジェクト」は東日本大震災の復興応援活動。サンマづくし、はらこめし、カツオの餃子…。復興を支えた「食」のチカラを「被災地の声」で綴る。思い出のメニューのレシピも掲載。 | 一般・技術 | 596 ㍑ | |
| 95 | 生活復興のための15章 | 「東日本大震災生活復興プロジェクト」報告 | ひょうご震災記念21世紀研究機構:編 | 2014.3 | ひょうご震災記念21世紀研究機構 | 福島県、宮城県、岩手県で開催した44回の「復興円卓会議」の意見を持ち帰り、阪神淡路大震災の経験も踏まえて委員会で討論した結果を、被災者と被災地のこれからへの提言としてまとめたもの。 | 書庫 | 369 ヒ | |
| 94 | 東日本大震災記録写真集 | ～「あの日」から私たちが歩んできた1827日～ | 福島県 | 2016.3 | 福島県広報課 | インタビュー 私たちの、あの日、あの時、そして今／それぞれの家族①・②・③／ふくしまへ思いを込めて①・②／福島県復興計画／ふくしま復興への軌跡2011・2012・2013・2014・2015／そして、ふくしまは未来へ | 郷土資料 | 369 フ | |

| | | | | | | | | | |
|----|--|--|------------------|--------|-----------------|---|-------|-------|--------|
| 93 | 日の鳥 | | 2 こうの 史代 // 著 | 2016.6 | 日本文芸社 | 妻を探して、雄鶏の旅は続く。震災を生き延びた樹に、誰も住まぬ民家の窓に、懐かしい面影をただ求める…。震災から5年の東日本の姿を、ぼおるぺんの優しいタッチで描く。『週刊漫画ゴラク』連載に描き下ろしを加え単行本化。 | 一般・社会 | 369 コ | |
| 92 | ともに咲かせる 復興とその先を見すえた5年目 | 2015年度 明治大学文学部心理社会学科現代社会学専攻 現代社会学実習(平山満紀担当)報告書 | 明治大学文学部平山ゼミ | 2015.3 | 明治大学文学部 平山満紀研究所 | 1実習報告:夏季実習 福島県新地町活動報告、新地町での活動の考察、岩手県大船渡市活動報告、大船渡市での活動の考察、大船渡市産業まつり活動報告、大船渡市椿事業活動報告、2研究論文:「まちおこしと行政の役割」、「釣師防災緑地公園と復興」他12編 | 郷土資料 | 369 メ | |
| 91 | 図書館の譜 | 第20号/明治大学図書館紀要 | 明治大学図書館紀要編集部会:編集 | 2016.3 | 明治大学図書館 | 特集 東日本大震災と図書館「原子力災害被災地における地域資料保全の現状と課題-福島県双葉町の事例から-」「復興支援から「学びの場」へ-福島県新地町図書館と大学生の関わり-」「復興支援と博物館-大船渡市立博物館支援事業-」「今すぐ取り組む減災支援」ほかノシリーズ・世界の図書館(15)ノ図書館自主研修グループ報告ノ『図書館の譜』総目次ノなど | 書庫 | 17 メ | 複本あり |
| 90 | 必ず明日はやって来る | 東日本大震災5年の記憶 | 新井 栄司 // 著 | 2016.1 | 河北新報出版センター | p8、11に新地町の復興フラッグ、大戸地区・釣師地区の震災後の風景の写真掲載あり。 | 一般・社会 | 369 ア | |
| 89 | 東日本大震災 復興の記録 | ～それは、震災直後から始まった！～ | 国土交通省東北地方整備局:発行 | 2015.3 | 国土交通省東北地方整備局 | 東日本大震災以後、岩手県、宮城県、福島県の沿岸被災地域でインフラ産業等の復興に尽力・活躍している市町村長や会社経営者から話をきき、「復興の記録」として取りまとめた | 郷土資料 | 369 コ | |
| 88 | 企業と震災 | 結び目が生んだ25のストーリー | 日本財団:編 | 2012.1 | 木楽舎 | 東日本大震災後のいま求められる、企業の新しい社会的役割とは何か? 25社の震災支援への取り組みの事例を紹介し、復興支援やこれからの大震災への備えなど、未来へのヒントを提言する。 | 一般・社会 | 335 ニ | |
| 87 | 歴史の中の常磐自動車道 | 福島県の浜通りと中通りにける交通路の相克 | 阿部 公一:著 | 2015.3 | ネクスコ・エンジニアリング東北 | 第1部 南東北・浜通りの交通路の変遷-古代官道から常磐自動車道まで、中通りとの比較視点から- 第2部 常磐線・金山トンネルに見る浜通り地方 第3部 常磐自動車道・新「黒松の道」計画 | 郷土資料 | 682 ア | |
| 86 | 福島新地町に生きる | 一震災からその後の暮らし- | アリソン クワイセル:著 | 2015.6 | アリソン クワイセル | 写真家アリソン クワイセルによって撮影された、震災後の新地町と、新地町で生活する人たちの写真集。巻末に新地町の震災からその後の暮らしについて、アリソン クワイセルの取材活動についてを記載する。本文は英語。日本語併記。 | 郷土資料 | 369 ア | 複本2冊あり |
| 85 | 平成26年度 復興庁「新しい東北」先導モデル事業報告書 子ども環境復興マスタープラン | 2015年(平成27年)3月ノ子ども参画による、子どもにやさしいまちの復興再生- | 公益財団法人 こども環境学会 | 2015.3 | こども環境学会事務局 | 東日本大震災の復興事業がすすむ中、子どもの視点、子どもが元気に育つ復興が行われるよう目配りをし、方向性を示し、子どもの環境復興、マスタープランを作成することも環境学会の、「新しい東北」先導モデル事業の報告書。 | 一般・社会 | 369 コ | |

| | | | | | | | | | |
|----|-----------------------|--|---|--------|----------------------|---|-------|-------|--------|
| 84 | あとから来る者のために | 東日本大震災・原発事故から四度目の春 | 福島県伊達郡桑折町：編 | 2015 | 福島県伊達郡桑折町 | 東日本大震災から4年経過し、町が合併60周年を迎えたこと、町内除染が一区切りしたことで刊行。写真を主とし、「献上桃」「物置のピアノ」を特集。復興が進む町に広がる笑顔、明るい話題をまとめる。 | 書庫 | 369 7 | |
| 83 | 東北ショック・ドクトリン | | 古川 美穂 // 著 | 2015.3 | 岩波書店 | 災害の発生直後、急激に進められる新自由主義的改革=ショック・ドクトリン。第一次産業への企業参入、大規模店舗の進出など、「創造的復興」という社会実験にさらされる被災地の状況を報告する。『世界』連載に加筆し書籍化。 | 一般・社会 | 369 7 | |
| 82 | いわて復興の歩み | 2011-2014東日本大震災津波からの復興の記録 | 岩手県：企画 | 2014.1 | 岩手県 | 概況・復興計画、復興の状況、主な取組(まちづくり、交通、生活、福祉、水産業、情報発信等)、三陸創造プロジェクト、主な復旧・復興事業の今後の見通し、“いわて復興だより”ダイジェスト、これまでの復興の歩み。 | 書庫 | 369 イ | |
| 81 | 東日本大震災の記録と復興への歩み | | 福島県：編 | 2013.3 | 福島県 | 震災の概要、写真(被害の状況と対応)、震災対応状況の時系列一覧、震災の記録(震災前の状況、複合災害の発生、震災対応、震災対応に係る住民調査と減災に向けての取組、これからの福島復興と未来へつなぐ提言、県議会の対応、参考) | 郷土資料 | 369 7 | 複本2冊あり |
| 80 | 東日本大震災・いわき市復興のあゆみ2013 | | いわき市行政経営部広報広聴課および東日本大震災・いわき市復興のあゆみ2013プロジェクトチーム：編 | 2014.3 | いわき市 | 1東日本大震災の概況 2いわき市復興のあゆみ(写真・年表) 3市復興ビジョン～市復旧計画・市復興事業計画 4早期復旧に向けて、全力で事業遂行(復旧事業) 5震災前にもまして元気ないわき市を(市復興事業計画) 6復興へ向け、力強く施策を展開(復興事業計画の重点施策) 7大規模災害に備えて | 書庫 | 369 イ | |
| 79 | 新地っ子の夏休み2014報告書 | 東日本大震災から4年目、子どもたちとすごした記録 | 公益財団法人東京YWCA：編集 | 2014 | 公益財団法人東京YWCA | 東京YWCA主催。東日本大震災で被災し、放射能の不安の中で生活を送る子ども達が、元気を得られるように一緒にキャンプを過ごした報告書。2011年より新地町の3小学校の子どもを対象として継続してきた。2014年は中学生もジュニアリーダーとして参加。 | 郷土資料 | 916 コ | 複本あり |
| 78 | 福島地区連合20年の記録 | 20th Anniversary | [日本労働組合総連合会福島県連合会]福島地区連合幹事会：編 | 2013.1 | 日本労働組合総連合会福島県連合会福島地区 | 福島地区連合20年の歴史、歴代議長・役員、東日本大震災と福島地区連合の取り組みについて など | 書庫 | 366 7 | |
| 77 | 復興の礎 人と人つながって築く | 2013年度 明治大学文学部心理社会学科現代社会学専攻 現代社会学実習(平山満紀担当)報告書 | 明治大学文学部平山ゼミ | 2013.3 | 明治大学文学部 平山満紀研究所 | 1実習報告：夏季実習(福島県新地町、岩手県大船渡市)、千葉県浦安市セルフケア講習、冬季実習(宮田仮設住宅)2研究論文：「東日本大震災における新聞・ラジオの役割」「仮設住宅の地域コミュニティと震災復興」他7編 | 郷土資料 | 369 メ | |

| | | | | | | | | | |
|----|---|---------------------------------|----------------------------|--------|--|--|-----------|-------|------|
| 76 | 子どもを元気にする環境づくりに 向けた専門家派遣と行動計画 報告書 | 子ども環境づくりガ イドライン | 公益社団法人こども 環境学会:編 | 2014.3 | 公益社団法 人こども環境 学会、株式 会社環境デ ザイン研究 | 福島県関連内容は、第4章「専門家の派遣による現状調査 と関係者へのアドバイス」の記録に4-3福島県としてp4- 19~4-23まで掲載あり。 | 書庫 | 318 コ | |
| 75 | 震災からの教育復興 | 岩手県宮古市の記 録 | 国立教育政策研究 所:監修 | 2012.1 | 悠光堂 | 東日本大震災をめぐる、岩手県宮古市の被災状況や復興 の記録。教育復旧復興の苦渋に満ちた努力や業務を進めて きた子ども、保護者、地域住民、教育関係者等の努力を、当 事者の言葉や宮古の写真、資料等とともに綴る。 | 書庫 | 372 コ | |
| 74 | 震災からの教育復興 | 過去、現在から未 来へ | 国立教育政策研究 所:監修 | 2012.1 | 悠光堂 | 大震災後の文部科学省の対応を検証する。さらに、学校教 育・社会教育分野全般について、被災地の教育委員会や学 校関係者、被災地の教育復興に尽力した人々が、東日本大 震災をうけてどう向き合い、どう行動したかを綴る。 | 書庫 | 372 コ | |
| 73 | 学校が守る命 | 日頃から取り組む 学校の危機管理と 防災教育 | 東京教育研究所:編 著 | 2012.4 | 東京教育研 究所 | 座談会「学校が守る命—三月十一日の教師たち」学校も地 域の一員—地域防災との連携の強化 など | 書庫 | 374 ト | |
| 72 | 東日本大震災復興支援事業3カ 年報告書 | | 日本赤十字社 | 2014.8 | 日本赤十字 社 | 東日本大震災発生後、日本赤十字社が行った復興支援に ついてまとめたもの。本編として概要、事業推進体制、方針・ 基本計画、実施プロセス、コミュニケーション活動、会計監 査。資料編として各支援の個別事業概要。 | 書庫 | 369 ニ | |
| 71 | ボランティア白書 | 2014 | 「広がれボランティ アの輪」連絡会議 // 編 | 2014.7 | 筒井書房 | 東日本大震災復興支援におけるボランティア・NPO・市民活 動団体の取り組みを紹介し、今後の課題や展開などをまと める。また、社協・ボランティア・市民の動向や、今日的な活 動事例も収録。 | 書庫 | 369 ホ | |
| 70 | 被災鉄道 | 復興への道 | 芦原 伸 // 著 | 2014.7 | 講談社 | 東日本大震災発生時、東北地方の太平洋沿岸路線を走行 中の列車は31本。乗客・乗務員の死傷者はゼロだった。彼 らはいかにして生還を果たしたか。3・11で甚大な被害を受け た路線を辿り、惨状と復興の過程を描き出す。 | 一般・産 業 | 686 ア | |
| 69 | さあ、復興だ。そして未来へ | 東日本大震災記録 誌 | 新地町商工会 | 2014.3 | 新地町商工 会東日本大 震災記録誌 発行委員会 | 第1章:震災の記憶 第2章:復旧、そして復興へ向けて 第 3章:被災企業の震災体験談 | 郷土資料 | 369 シ | 複本あり |
| 68 | 復興は教育からはじまる | 子どもたちの心の ケアと共生社会に 向けた取り組み | 細田 満和子 // 編著 | 2014.5 | 明石書店 | 東日本大震災後の福島県相馬地方を舞台に、地元の人々 と全国からの支援者が協力しながら進めている復興の記 録。相馬地方の学校や教育の現場を中心に、子どもたちの 心の揺れとそれに対するケアの状況を伝える。 | 書庫 | 369 フ | |
| 67 | 続までの力 | 福島県飯館村にみ る一人ひとりが復 興する力 | 「までい」特別編成 チーム:企画編集 | 2012.8 | シーズ出版 | 原発事故に見舞われた飯館村のその後とは…。手間ひま惜 みせず、丁寧に、心をこめて、つつましく、という意味の“まで い”。このまでの力で飯館村民は復興に向かう。 | 郷土資料 | 291 マ | |

| | | | | | | | | | |
|----|-----------------------|----------------------------|----------------------------|--------|--------------------|---|-------|-------|------|
| 66 | 浪江のころ通信 | 震災後3年間の記録 | 浪江のころプロジェクト実行委員会：編 | 2014.3 | 浪江のころプロジェクト実行委員会 | 町長とプロジェクトリーダーの対談『浪江のころ通信』誕生の経緯とその役割『浪江のころ通信』平成23年7月～平成25年12月号掲載分 取材者たちの声『浪江のころ通信』が果たしてきた役割～町民・取材者座談会～ | 郷土資料 | 369 ナ | |
| 65 | 日の鳥 | [1] | こうの 史代 // 著 | 2014.5 | 日本文芸社 | 突然いなくなった妻を捜して旅に出た雄鶏が見た、東日本の風景とは…。東日本大震災の記憶を、ほおるべんの優しいタッチで描く。『週刊漫画ゴラク』連載を単行本化。 | 一般・社会 | 369 コ | |
| 64 | 農と言える日本人 | 福島発・農業の復興へ | 野中 昌法 // 著 | 2014.4 | コモンズ | 東日本大震災後、250回以上福島県を訪問した著者が、被災地で聞いた農家の生の声を伝え、研究者と農家との協働について紹介する。農再生への道を切り開く一冊。 | 一般・産業 | 612 ノ | |
| 63 | 笑顔を届けるプロジェクトー新地町ー | presented by KIHARA | キハラ(株)：編 | 2014.2 | キハラ(株) | 2014年1月25日、新地町図書館にて開催された「ブックトラックに絵をかこう」イベントの写真集。東日本大震災復興支援活動の「笑顔を届けるプロジェクト」キハラ(株)協賛。 | 郷土資料 | 369 キ | 禁帯出 |
| 62 | 99%の絶望の中に「1%のチャンス」は実る | | 岩佐 大輝 // 著 | 2014.3 | ダイヤモンド社 | 破壊しつくされたあの日から3年。同じ場所に、真っ赤な希望のイチゴが実っている。東日本大震災後、イチゴビジネスで故郷・宮城県山元町を救ったIT社長の、奮闘の記録。 | 一般・産業 | 601 イ | |
| 61 | いちご畑をもう一度 | 3・11復興の軌跡 | 森 栄吉 // 著 | 2014.3 | 潮出版社 | 東北最大のいちご産地・宮城県亘理町で40年近くいちごを作り続けてきた著者が、津波ですべてを失い、復興へ向けて挑戦を重ねた1000日間の記録をまとめる。不可能を可能に変えた“奇跡のいちご”の物語。 | 書庫 | 626 モ | |
| 60 | 新地っ子の夏休み2013報告書 | | 公益財団法人東京YWCA：編集 | 2013 | 公益財団法人東京YWCA | 東京YWCA被災者支援プロジェクトより。放射能の危険と不安の中で、生活を送る福島子ども達のために、安心して過ごせる環境でのびのびと楽しく共同生活を送り、生きる力を取り戻す一助とするプロジェクト。2013年、夏休みの4日間を新地町の子ども達が仙台の秋保で過ごしたキャンプ生活の報告書。 | 郷土資料 | 916 コ | 複本あり |
| 59 | 無から生みだす未来 | 女川町はどのように復興の軌跡を歩んできたか | 神谷 隆史 | 2013.1 | PHP研究所 | 住民の1割近くが犠牲になり、8割以上が住居を失った女川町。水産業が壊滅し、女川原発も停止したところからどのように立ち上がり、復興を進めてきたのか。2年以上にわたる現地取材と定点観測によるドキュメント。 | 書庫 | 601 カ | |
| 58 | 東日本大震災2年目の活動記録 | | 日本財団：編集 | 2013 | 日本財団 | 公益財団法人日本財団東日本大震災復興支援チームの2年目の記録 | 書庫 | 369 ニ | 複本あり |
| 57 | 3. 11 2011 東日本大震災 | 東北6県血液センターからの報告 震災に備える血液事業 | 東北管内赤十字血液センター被災記録合同編集委員会：編 | 2012.8 | 日本赤十字社東北ブロック血液センター | | 書庫 | 369 ト | |

| | | | | | | | | | |
|----|----------------------|------------------------|---------------------------------|--------|------------|---|-------|-------|--|
| 56 | その時、建設業は | 緊急出動・対応の記録 | 福島県建設業協会：著 | 2013.5 | 福島県建設業協会 | 体験談：p16～17に「東日本大震災からの1年間」、p29に「震災と向き合って」(相馬支部)庄司建設工業株式会社 | 一般・技術 | 510 ㍑ | |
| 55 | 東北地域の産業・社会の復興と再生への提言 | 復興過程の現実に向き合い、地域の可能性を探る | 東北大学大学院経済学研究科地域産業復興調査研究プロジェクト：編 | 2013.3 | 河北新報出版センター | 東北大学大学院経済学研究科・震災復興研究センターによる「地域産業復興調査研究プロジェクト」の研究成果をまとめる。震災復興企業実態調査概要、被災地域の産業・社会の復興の進捗に見る現状と課題などを収録。 | 書庫 | 369 ト | |
| 54 | 住宅白書 | 2011-2013 | 日本住宅会議 // 編 | 2013.6 | ドメス出版 | 市民の側から住宅問題の実態と展望を描く白書。2011-2013は、東日本大震災と福島第一原発事故の発生による被害の実態と、住まいと生活の復興に向けた現状を取り上げ、今後の課題を明らかにする。 | 書庫 | 365 ジ | |
| 53 | 「人間の復興」へ | 2/東日本大震災公明党 新たな挑戦の記録 | 公明新聞 東日本大震災取材班 | 2013.5 | 公明党機関紙委員会 | 再び政権与党になった公明党の、政権交代の日から約100日間の奮闘ぶりを、被災地の姿や動きを伝えるルポと論説・解説記事、識者の手記とともに紹介。 | 一般・社会 | 315 コ | |
| 52 | 第2期福島県地域司法計画 | | | 2013.3 | 福島県弁護士会 | 第1、福島県の地域司法計画 第2、東日本大震災及び東京電力福島第一・第二原子力発電所事故への対応ほか | 郷土資料 | 327 ㍑ | |
| 51 | あのときあれからそれからそれから | 東北未来絵本 | みんなと荒井良二：作 | 2012.1 | 山形新聞社 | 山形新聞社が2012年3月から実施した「東北未来絵本」キャンペーンによってつくられた絵本。東日本大震災を語り継ぎ、未来を志向するために、山形県出身の絵本作家・荒井良二さんと小学生のこどもによるワークショップで絵巻になりました。 | 書庫 | 726 ㍑ | |
| 50 | 希望の大槌 | 逆境から発想する町 | 碓川 豊 // 著 | 2013.3 | 明石書店 | 東日本大震災で筆舌に尽くしがたい痛みを負った岩手県大槌町。震災後に町長に就任した著者が、日本が抱える多くの課題を体現する東北の小さな町を「世界に誇れる町」にするための取り組みや、新たな町づくりへの思いを綴る。 | 一般・社会 | 318 イ | |
| 49 | 東日本大震災希望の種をまく人びと | | 寺島 英弥 // 著 | 2013.3 | 明石書店 | 被災地で出会ったすべてを忘れてはいけない。東日本大震災の被災者と共に生きるジャーナリストが、丹念な取材で綴った震災2年目の記録。ブログ『余震の中で新聞を作る』に加筆修正して書籍化。 | 書庫 | 369 テ | |
| 48 | 東日本大震災1年間の活動記録 | | 日本財団：編集 | 2012.6 | 公益財団法人日本財団 | p127に新地町への支援の掲載有り。 | 書庫 | 369 ニ | |
| 47 | 3・11から考える「この国のかたち」 | 東北学を再建する | 赤坂 憲雄 // 著 | 2012.9 | 新潮社 | 津波から逃れた縄文貝塚、名勝松島の変貌、原発、再び湯に戻ったムラの風景…。東日本大震災によって大きな被害を受けた東北の土地の記憶を掘り返し、近代の残像を探りつつ、剃き出しの海辺に「将来の日本」を見出す。 | 書庫 | 369 ㍑ | |

| | | | | | | | | | |
|----|-------------------|--------------------------------|------------------|--------|---------------|---|-------|-------|-----|
| 46 | 大熊町学校再生への挑戦 | 原発事故・全町避難 | 武内 敏英 // 著 | 2012.8 | かもがわ出版 | 東日本大震災の原発事故による全町避難指示で、自分の家からも学校からも離れなくてはいけなかった大熊町の子どもたち。避難先の会津若松市での学校開設の経緯や取り組みの実際を紹介し、これからの学校教育を考える。 | 一般・社会 | 372 ヶ | |
| 45 | 文部科学白書 | 平成23年度 | 文部科学省 // 編集 | 2012.6 | 佐伯印刷 | 文部科学省が取り組む、様々な分野における施策の新しい動きを紹介する。「東日本大震災からの復旧・復興」「文教・科学技術施策の動向と展開」の2部構成。 | 書庫 | 373 モ | 禁帯出 |
| 44 | 復興は現場から動き出す | 本気で動く個人のネットワークが、本当に必要な支援を可能にする | 上 昌広 // 著 | 2012.8 | 東洋経済新報社 | 被災地の人のために自分にできることはないかと考える人々を現場につないできた著者が、福島県浜通りで動き出した現場主導の復興を、具体的な事実とデータを示しながら語る。 | 書庫 | 498 カ | |
| 43 | 東日本大復興 | 「東北ビジネス最前線」スペシャル | 伊藤 裕造 // 編 | 2012.6 | 東日本放送 | 政財界を代表するキーマンたちが、東日本復興への鍵を徹底討論! KHB東日本放送の経済番組「東北ビジネス最前線」の番組制作を通じて記録した、東日本大震災から復興への1年間の歩み。 | 一般・社会 | 332 ヒ | |
| 42 | 復興と支援の災害心理学 | 大震災から「なに」を学ぶか | 藤森 立男 // 編著 | 2012.7 | 福村出版 | 東日本大震災から1年。心、コミュニティ、社会と文化の復興を過去の震災復興に照射しながら多角的に考える。また、特徴的な復興支援事例、福島原発事故調査・検証委員会の委員長である畑村洋太郎のインタビューも掲載。 | 書庫 | 369 フ | |
| 41 | 3・11・東日本大震災レポート | 2011/福島県建設業協会 復旧・復興の記録 | (株)福島建設工業新聞社 | 2012.5 | 一般社団法人福島建設業協会 | p138に新地駅風景写真掲載。 | 一般・技術 | 510 イ | |
| 40 | 大震災からの復旧 | 知られざる地域建設業の闘い | 米田 雅子: 編著 | 2012.1 | 株式会社ぎょうせい | 東日本大震災において、被災地の大量のがれきを撤去し、道路・橋梁・港湾の復旧のために力を尽くした地域建設業。復旧初動時にどう動いたのか、機能しない自治体もある中でどのように連携したのか、知られざる活動を紹介する。 | 一般・技術 | 510 ヨ | |
| 39 | 大震災に強い家づくり | 福島県郡山の地域工務店発! | 野崎 進 / 著 | | PHP研究所 | 大地震、津波、原発、液状化…。被災した2002棟を徹底検証してわかった「実態」「教訓」「課題」とは? 福島県で工務店を営む著者が、これからの家づくりに欠かせないポイントをあますところなく伝える。 | 一般・技術 | 520 ノ | |
| 38 | 復興まちづくりの知恵袋 | | アーバンデザイン研究体 // 編 | | アーバンデザイン研究 | | 書庫 | 369 ア | |
| 37 | 災害廃棄物分別・処理実務マニュアル | 東日本大震災を踏まえて | 廃棄物資源循環学会 // 編著 | 2012.5 | ぎょうせい | 災害廃棄物に関連する国の制度・指針、計画立案に関するコンセプトや基本事項、分別・処理戦略、災害時の支援のあり方など、災害廃棄物の分別や処理について、実務的に解説したマニュアル。 | 一般・技術 | 518 サ | |

| | | | | | | | | | |
|----|-------------------------|-----------------------------------|-------------------------|--------|-----------------------|---|-----------|-------|------------|
| 36 | 法テラス・東日本大震災相談実 例Q&A集 | ～相談者の声から 作った～ | 日本司法支援セン ター // 編 | 2011.1 | 日本司法支 援センター | | 一般・社 会 | 320 ニ | 複本2冊あ り |
| 35 | 蒼い炎 | | 羽生 結弦 // 著 | 2012.4 | 扶桑社 | 精一杯滑ることで、感謝の気持ちを伝えたい。東日本大震災で被災しながら、逆境をバネに大躍進を遂げたフィギュアスケート界の新星・羽生結弦がスケートへの熱い思いを語る。写真多数収録。 | 一般・芸 術 | 784 ハ | |
| 34 | 第一次新地町復興計画 | | 新地町企画振興課 復興対策室 // 編集 | 2012.4 | 新地町企画 振興課復興 対策室 | 2011年3月に発生した東日本大震災に伴う、新地町の第一次復興計画。復興構想(被災状況、応急対策の状況、復興にあたっての基本的視点、土地利用構想、復興構想の構成図)、基本計画(すまい再建事業、再生可能エネルギー活用事業、低レベル放射性物質の除染事業 ほか)、付属資料 | 郷土資料 | 318 シ | 複本3冊あ り |
| 33 | わたしはゼツタイに負けない!! | 福島原発事故から 150日、復活した元 気な旅館の物語 | 石橋 孝子 // 著 | 2012.3 | 柴田書店 | 東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故により、廃業の危機に追いつめられた福島県の磐梯熱海温泉の離れの宿「よもぎ埜」。オーナーが、「よもぎ埜」再生への5カ月間の苦しい日々を綴る。 | 一般・日 文 | 916 イ | |
| 32 | 「森の長城」が日本を救う | 列島の海岸線を 「いのちの森」でつ なごう! | 宮脇 昭 // 著 | 2012.3 | 河出書房新 社 | 日本を甦らせるには、鎮守の森を守ってきた先人の知恵と土地本来の木々の力に頼るしか道はない。東日本大震災で被災した青森から福島までの海岸線に、震災ガレキを利用した緑の防波堤をつくることを提案する。 | 書庫 | 653 ミ | |
| 31 | 言葉に何ができるのか | 3・11を越えて | 佐野 眞一 // 著 | 2012.3 | 徳間書店 | 3・11以降、この国の言語空間はどう変容したのか。「津波と原発」等で東日本大震災とこの国の人心を活写したノンフィクションの巨人と、「詩の礫」3部作で福島の今を伝え続ける現代詩人が日本人の寄り添いを語り合う。 | 書庫 | 369 サ | |
| 30 | 走り出せ!東北の鉄道 | 東日本大震災から の復活 | | 2012.4 | イカロス出版 | 2011年3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた東北の鉄道路線。被災当時の様子と被災から1年後の各路線の現状を写真で紹介。どこまで復旧が進んでいるのか、これからどうなっていくのかをレポートする。 | 書庫 | 686 ハ | |
| 29 | 被災地の博物館に聞く | 東日本大震災と歴 史・文化資料 | 国立歴史民俗博物 館 // 編 | 2012.3 | 吉川弘文館 | 東日本大震災で大きな被害を受けた地域の歴史・文化資料。それらをいかにレスキューし、保全するのか。現場の博物館職員たちが多数の図版を交え、現状をレポート。資料の保護に備えるネットワーク構築を呼びかける。 | 書庫 | 69 ヒ | |
| 28 | 東日本大震災「復興」時刻表 | 臨時ダイヤで検証 する東北53被災路 線の全貌 | 越前 勤 // 著 | 2012.3 | 講談社 | 東北鉄道復旧の真実を映し出す、臨時運行の記録。被災地在住の列車ダイヤ研究家が、市販の時刻表には載ることのない「臨時ダイヤ」を、3.11から9カ月にわたり、東北7県の駅と鉄道事業所から収集のうえ作成。 | 一般・産 業 | 686 イ | |

| | | | | | | | | | |
|----|-------------------|---------------------------|---------------|--------|---------|--|-------|-------|------|
| 27 | 待っている犬 | 東日本大震災で被災した犬猫たち | ドックウッド // 著 | 2012.2 | 角川書店 | 飼い主の死亡も知らず、倒壊した自宅から動かない犬。半壊の自宅で犬と一緒に暮らす飼い主。仙台のドッグショップのスタッフとボランティアが救援活動中に撮った、東日本大震災で被災した人と動物の記録写真集。 | 一般・産業 | 645 マ | |
| 26 | 復興に命をかける | | 村井 嘉浩 // 著 | 2012.3 | PHP研究所 | 震災の犠牲者の死を決して無駄にせず、元気な宮城・東北・日本を必ず取り戻す。これが私たちの使命です。被災地・宮城県の村井知事が、復興にかける思い、取り組みのすべてを語る。 | 一般・社会 | 318 ム | |
| 25 | 子どもたちに「生き抜く力」を | 釜石の事例に学ぶ津波防災教育 | 片田 敏孝 // 著 | 2012.2 | フレーベル館 | 岩手県釜石市の小・中学校で津波防災教育に取り組んできた著者が、東日本大震災で起こったこと、釜石市の小中学生の生存率99.8パーセントの理由、防災への取り組みなどを紹介する。 | 書庫 | 374 カ | |
| 24 | 市民の力で東北復興 | 大震災・原発事故、新しい時代への災害ボランティア論 | ボランティア山形 // 著 | 2012.1 | ほんの木 | 市民が官・企業と協同する力をつけ、組織運営の最前線に立つ「ボランティア山形」による東日本大震災支援活動の記録。震災から学んだこと、災害ボランティアのあるべき姿、行政との提携のあり方などを4人の理事が語る。 | 書庫 | 369 シ | |
| 23 | 震災と情報 | あのとき何が伝わったか | 徳田 雄洋 // 著 | 2011.1 | 岩波書店 | 危機を生きるために必要な情報と知識は何か。そして有効な情報手段は何か。国内外の各種メディア・研究機関、インターネット上の情報を追跡し、2011年3月11日の東日本大震災発生からの6ヶ月を検証する。 | 書庫 | 369 ト | |
| 22 | 農業・漁業をどう立て直すか | 大震災・原発事故からの復旧の実態、復興の課題 | 梶井 功 // 編集代表 | 2012.1 | 農林統計協会 | 東日本大震災・原発事故による農業・漁業の被害状況、そこからの復旧の現状・復興の課題を、現地の実情に即して具体的に明らかにし、復旧・復興に大きな役割を果たした支援・連帯活動を提示する。 | 書庫 | 612 ノ | |
| 21 | 東日本大震災からの復興まちづくり | | 佐藤 滋 // 編 | 2011.1 | 大月書店 | 東日本大震災からの復旧・復興は、これまで積み重ねられてきた住民主体のまちづくりの成果の上に立ってこそ、達成される。復興まちづくりの最前線で奮闘する専門家たちによる、現状報告と提言をまとめる。 | 一般・技術 | 518 ヒ | |
| 20 | 福島県の鉄道から見た 東日本大震災 | 被災から運行再開そして復興へ | 橋本俊一 // 編集 | 2011.9 | 高樹屋 | 東日本大震災を後世に伝えるため、福島県を走る鉄道を中心に緊急調査。(p3、5～9、26～27 に新地町の記載あり。) | 郷土資料 | 686 ハ | 複本あり |
| 19 | 日本大災害の教訓 | 複合危機とリスク管理 | 竹中 平蔵 // 編著 | 2011.1 | 東洋経済新報社 | 東日本大震災後、約半年の時点で収集可能な情報に基づいてファクトを整理し、危機管理の教訓を引き出すとともに、今後必要な政策を検討する。各分野の10人の政策専門家による、分析と議論の集約。 | 書庫 | 369 ニ | |

| | | | | | | | | | |
|----|----------------------------|------------------|-------------------|--------|------------|--|-------|-------|--|
| 18 | できることをしよう。 | ぼくらが震災後に考えたこと | 糸井 重里 // 著 | 2011.1 | 新潮社 | まず、忘れないことならできる。少し分け合うことだってできると思う。『ほぼ日刊イトイ新聞』に掲載され、熱い感動の渦を巻き起こした「震災関連」コンテンツ6編と、糸井重里語り下ろしロングインタビューを収録。 | 書庫 | 369 デ | |
| 17 | 伝える力 | 2 | 池上 彰 // 著 | 2012.1 | PHP研究所 | 池上彰がテレビや報道の現場で学んできた「もっと伝わる」話し方、書き方、聞き方を伝授。東日本大震災と伝える力、総理の演説力、怪しい敬語、教科書がわかりにくい理由など、様々なトピックと具体的なノウハウが満載。 | 一般・社会 | 336 イ | |
| 16 | 天皇皇后両陛下被災地の人々との心の対話 | 東日本大震災185日希望の記録 | 『皇室の20世紀』編集部 // 編 | 2011.1 | 小学館 | 東日本大震災発生から6カ月。避難所・被災地で天皇皇后両陛下より深いいたわりのことばをかけられた人々から届いた希望のメッセージと、被災地の人々に心を寄せ続けられる両陛下のご動静の、185日に及ぶ記録集。 | 一般・社会 | 369 テ | |
| 15 | フラガール3.11 | つながる絆 | 清水 一利 // 著 | 2011.1 | 講談社 | 2011年3月11日、被災した宿泊客のために、福島県いわき市の「スバリゾートハワイアンズ」の社員は何を考え、行動に移したのか。フラガールたちや社員取材し、営業再開に至るまでの思い・行動・葛藤を活写する。 | 一般・産業 | 689 シ | |
| 14 | ふくしまの子どもたちが描くあのとき、きょう、みらい。 | | 蟹江 杏 // 編 | 2011.1 | 徳間書店 | 地震、津波、原発…。福島の子もたちが震災直後から描いてきた故郷の絵をカラーで収録。蟹江杏と佐藤史生が震災の翌日からはじめた「被災地の子どもたちに絵本と画材を！」プロジェクトから生まれた本。 | 一般・芸術 | 726 フ | |
| 13 | 変えよう地方議会 | 3.11後の自治に向けて | 河北新報社編集部 // 編 | 2011.8 | 公人の友社 | 惰眠をむさぼったまま退場するか、それとも自己変革して生き残るか。東北各地のさまざまな地方議会に関する動きを紹介する。『河北新報』連載に、東日本大震災後の動向と主な自治体の被災データを加えて単行本化。 | 一般・社会 | 318 カ | |
| 12 | 企業のための震災・復興法律相談 | 東日本大震災をふまえて | TMI総合法律事務所 // 編 | 2011.7 | ぎょうせい | 震災・復興に関連して、企業等に生じうるあらゆる法律問題に関し、分野ごとにQ&Aを掲げて解説。特に東日本大震災で問題となった、原発、保険、不動産関連の問題について詳しく説明する。 | 書庫 | 369 キ | |
| 11 | 早わかり東日本大震災の税務 | | 藤曲 武美 // 著 | 2011.6 | 中央経済社 | 東日本大震災特例法、関係法規、関係通達、FAQなど、震災特例税制に関する必要事項をコンパクトにまとめ、わかりやすく解説する。国税庁が公表した申告書記載例も収録。 | 一般・社会 | 345 フ | |
| 10 | エネルギー復興計画 | 東北版グリーンニューディール政策 | 山家 公雄 // 著 | 2011.6 | エネルギーフォーラム | エネルギー小国日本においてこそ、あらゆるエネルギーの導入に挑戦していかなければならない。未曾有の混乱期のなかで、日本のエネルギー政策や電力システムをどう考えていくべきかを、エネルギー戦略研究所所長が提言する。 | 一般・技術 | 501 ヤ | |
| 9 | 地図で読む東日本大震災 | 大地震 福島原発 災害予測 | 成美堂出版編集部 // 編集 | 2011.7 | 成美堂出版 | 戦後最大の自然災害・東日本大震災の被害状況や、最悪のレベルとなった福島第一原発事故、そして今後起こりうる災害について、鳥瞰図や衛星写真を駆使して俯瞰的・多面的に解説する。 | 書庫 | 369 チ | |

| | | | | | | | | | |
|---|---------------------|--------------|---|--------|---------|---|-------|-------|--|
| 8 | 震災の法律相談 | | 小倉 秀夫 // 編著 | 2011.6 | 学陽書房 | 被災者が直面する多様な法律問題につき具体的ケースをもとにQ&A形式で詳細に解説。津波・風評・放射能被害、計画停電、土地の液化化など東日本大震災特有の問題にも対応。 | 書庫 | 369 シ | |
| 7 | 復興の精神 | | 養老 孟司 // 著 | 2011.6 | 新潮社 | 東日本大震災以降、私たちはどのように考え、どのように行動し、どのように生きていくべきなのか。この問いに、養老孟司、瀬戸内寂聴、阿川弘之ら9人が正面から答える。 | 一般・社会 | 304 フ | |
| 6 | ともに生きる | 東日本大震災を乗り越えて | PHP研究所 // 編 | 2011.6 | PHP研究所 | 戦後最大の国難である東日本大震災に際し、瀬戸内寂聴、茂木健一郎、やなせたかし、高橋克彦など、各界の第一線で活躍する人々から寄せられた、魂のこもった熱い言葉や生きる勇気を奮い立たせるメッセージを収録する。 | 書庫 | 369 ト | |
| 5 | 日本人の復興力 | 緊急提言 | 福川 伸次 // 著 | 2011.5 | 徳間書店 | 大震災後の復興を成功させ、その上で進化の道を進んでいくには、産業文明・精神文化・科学技術の相乗的發展を図ることが原動力となる。元・通産省事務次官が、「日本復興」のロードマップを提言する。 | 一般・社会 | 304 フ | |
| 4 | 東日本大震災復旧・復興計画の基本 | | | 2011.5 | 未来予測研究所 | 原発事故、放射能汚染、再生可能エネルギー、財政など、東日本大震災で被災した地域の復旧・復興計画を策定していく上で重要となる課題の解決策を示す。 | 書庫 | 369 ヒ | |
| 3 | 池上彰の学べるニュース | | 5 池上 彰 // [著] | 2011.5 | 海竜社 | 私たちがすべきこと、できることとは? 日本に基大な被害をもたらした東日本大震災、福島原発の事故、そして心配される放射線の影響について、池上彰がわかりやすく解説。同名テレビ番組の公式参考書。 | 一般・社会 | 304 イ | |
| 2 | Q&A東日本大震災と登記実務 | | 鈴木 龍介 // 編著 | 2011.5 | 商事法務 | 東日本大震災を契機として発生するであろう不動産登記・商業登記・後見登記の実務上の諸問題について、Q&A形式でナビゲート。参考資料、今後の施策・運用についての意見なども掲載。 | 書庫 | 324 入 | |
| 1 | 東日本大震災と〈自立・支援〉の生活記録 | | 吉原 直樹 // 編著 山川 充夫 // 編著 清水 亮 // 編著 松本 行真 // 編著 | 2020.7 | 六花出版 | 東日本大震災から9年。復興の現状や〈自立・支援〉の諸相をあきらかにし、復興の記録の方法とレガシーの中身を検討。〈自立・支援〉の「いま」と「これから」を問い質す。ジャケットそでにテキストデータ引き換え券あり。 | 一般・社会 | 369 ヒ | |